

『MOとZip～技術発展に飲み込まれるメディアたち～』

宮杉 浩

今回はDVDやUSBメモリなどの普及にしたいが、徐々に姿を消していつかメディアをご紹介します。

まず紹介するのはMOディスク (Magneto-Optical Disk) です。これは光磁気ディスクと呼ばれるもので、赤色レーザー光と磁界を用いて磁気記録を行い、レーザー光を用いて再生を行う仕組みとなっています。大きさは3.5インチ (5.25インチのものも存在しています) でプラスチックのカートリッジに収納されています。記録容量は128MB～2.3GBの範囲で6タイプあります。カートリッジに収納されているので傷や埃に強く、また書き込み可能回数もハードディスクドライブ以上ということで企業や官公庁のデータ記録・運搬・保管用として重用され、印刷業界でも広く用いられています。ただ一般的にはCD/DVDドライブ装置がパソコンに標準装備され、また以前お話しした安価で大容量のUSBフラッシュメモリが急速に普及していることもあり、あまり普及していません。ディスクドライブが国内では2社しか生産されていないこともあり、一般的な普及が進むことはもはやないと考えられていますが、その耐久性の高さにより地味に生き延びていくものと思われれます。

続いて紹介するのはZipです。Zipはアメリカのアイオメガ社が開発したリムーバブル磁気ディスクメディアです。大きさは3.7インチで、フロッピーディスクをより頑強にしたようなデザインが特徴です。容量は100MBで、フロッピーディスクが主流だった時代にはその大容量と価格が安価だったこともあり、特にアメリカでは次世代のフロッピーディスクとまで謳われたこともありましたが、しかし日本国内ではMOの人气が高く、あまり普及しませんでした。そしてCD/DVD記録媒体、USBメモリなどによってもはや過去のメディアとなっています。実際国内での流通はほとんどなく、生産メーカーから直接購入しなければならないほどの状態となっています。

今回紹介したMOとZipはプラスチックカートリッジを装備して高い耐久性を誇っているにも拘わらず、ドライブ装置が一般的なパソコンに装備されなかったことが響いて、CD/DVD記録媒体とUSBメモリに飲み込まれてしまっているのが現状です。特に100MBがしか容量がないZipは画像、音楽などの大容量データが頻繁に扱われるようになったこのご時世では生き残ることができないのは致し方ないことと思われれます。MOはUSBバスタイプのドライブが発売されていること、GB単位のディスクがあること、企業や官公庁での記録メディアとしての地位を国内で確立していることからこれからも生き続けていくと思われれます。

記録メディアの普及に関して一番大事な点はパソコンへの標準装備とメディアの低価格と考えられれます。その点でCD/DVD記録メディアとUSBメモリは現在主流メディアの地位を確立し、MOとZipは主流となることはできませんでした。今後の技術発展によって出現する新しい記録メディアがどちらの道を歩むのか注目していきたいと思われれます。

みやすぎ ひろし (係・管理運営課)